

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2014年3月13日(13.03.2014)



(10) 国際公開番号

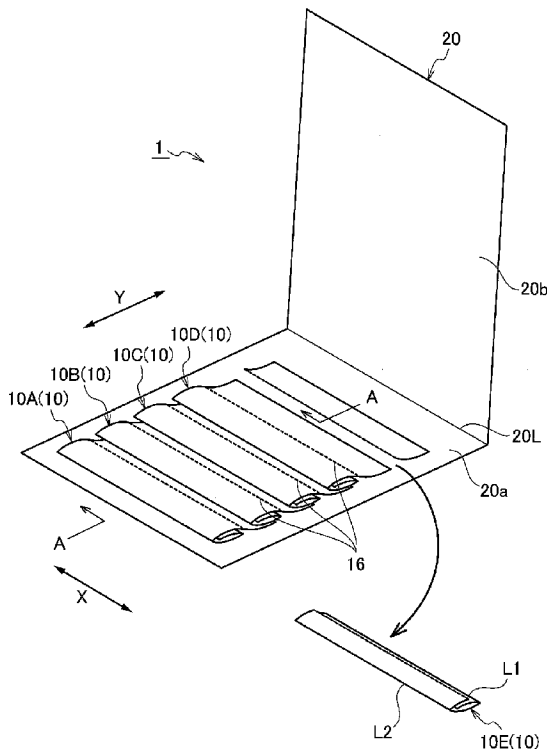
WO 2014/038484 A1

- (51) 国際特許分類:
A24F 47/00 (2006.01) B65D 73/00 (2006.01)
A61M 15/06 (2006.01) B65D 85/10 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2013/073343
- (22) 国際出願日: 2013年8月30日(30.08.2013)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2012-197871 2012年9月7日(07.09.2012) JP
- (71) 出願人: 日本たばこ産業株式会社 (JAPAN TOBACCO INC.) [JP/JP]; 〒1058422 東京都港区虎ノ門二丁目2番1号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: 松本 光史 (MATSUMOTO, Hirofumi); 〒1308603 東京都墨田区横川一丁目17番7号 日本たばこ産業株式会社内 Tokyo (JP). 新川 雄史 (SHINKAWA, Takeshi); 〒1308603 東京都墨田区横川一丁目17番7号 日本たばこ産業株式会社内 Tokyo (JP). 山田 学 (YAMADA, Manabu); 〒1308603 東京都墨田区横川一丁目17番7号 日本たばこ産業株式会社内 Tokyo (JP).
- (74) 代理人: フェリシテ特許業務法人 (felicité Patent Professional Corporation); 〒1050002 東京都港区愛宕二丁目5番1号 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR,

[続葉有]

(54) Title: FLAVOR INHALER PACKAGE

(54) 発明の名称: 香味吸引器パッケージ



(57) Abstract: The flavor inhaler package (1) comprises multiple flavor inhalers (10) that are joined to each other. Each of the multiple flavor inhalers (10) has a flavor-generating source (13) (an inner body (11) for accommodating a flavor-generating source (13)) and a flexible holder (12) capable of forming an air channel that extends along a specified direction (axis direction (X)). The flavor-generating source (13) is configured so as to be accommodated in the air channel when the holder (12) forms the air channel. Portions of the flavor-generating source (13) (the inner body (11) for accommodating the flavor-generating source (13)) are joined to portions of the holder (12). Separation lines (16) for separating the multiple flavor inhalers (10) are formed.

(57) 要約: 香味吸引器パッケージ1は、互いに接合される複数の香味吸引器10を含む。複数の香味吸引器10のそれぞれは、香味発生源13 (香味発生源13を収容する内体11) と、所定方向 (軸方向X) に沿って延びる空気流路を形成可能な可撓性を有するホルダ12とを有する。香味発生源13は、ホルダ12によって空気流路が形成された状態において、空気流路内に収容されるように構成される。香味発生源13 (香味発生源13を収容する内体11) の一部は、ホルダ12の一部と接合される。複数の香味吸引器10を切り離すための切り離しライン16が形成される。

WO 2014/038484 A1



GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT,
NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI
(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML,
MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称：香味吸引器パッケージ

技術分野

[0001] 本発明は、互いに連結された第 1 非燃焼型香味吸引器及び第 2 非燃焼型香味吸引器を少なくとも含む香味吸引器パッケージに関する。

背景技術

[0002] シガレットや葉巻等の喫煙物品は、一般的に複数纏められた状態でユーザに提供されている。例えば、特許文献 1 には、複数の喫煙物品を収納する包装体が開示されている。また、特許文献 2 には、複数の喫煙物品が糊を介して接合されたたばこユニットが開示されている。

[0003] 特許文献 1 及び特許文献 2 の包装体又はたばこユニットによれば、複数の喫煙物品を纏めてユーザに提供することができる。

[0004] しかし、上述の従来技術には、以下の問題があった。特許文献 1 の包装体は、包装体としての箱内に複数の喫煙物品を収納している。各喫煙物品は、個々に分離した状態で収納されている。よって、ユーザの消費に伴い喫煙物品は箱内で移動可能となるため、喫煙物品同士又は箱内壁に衝突することで、喫煙物品の外観等の品質が劣化してしまうおそれがある。また、喫煙物品が箱内で容易に移動しない、ある程度密に充填している状態においても、1 つの喫煙物品を取り出した際に、他の喫煙物品が同時に取り出されることがある。

[0005] また、特許文献 2 のたばこユニットは、各喫煙物品の外周面に糊が付されている。喫煙物品の外周面に糊が付着しているため、ユーザの指に付着することがある。ユーザが喫煙物品を扱い難くなり、使用性が悪化するおそれがある。さらに特許文献 2 のたばこユニットは、分離すると外周面が破れてしまうため、使用に際しては、ユーザがたばこ巻紙等で巻き直す必要があり、非常に煩雑である。

先行技術文献

特許文献

[0006] 特許文献1：特開2000-109064号公報

特許文献2：米国特許公報第5526825号明細書

発明の概要

[0007] 本発明の特徴は、互いに連結された第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器を少なくとも含む香味吸引器パッケージであって、前記第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器のそれぞれは、香味発生源と、所定方向に沿って延びる空気流路を形成可能な可撓性を有するホルダとを有しており、前記香味発生源は、前記ホルダによって前記空気流路が形成された状態において、前記空気流路内に収容されるように構成されており、前記香味発生源の一部は、前記ホルダの一部と接合されており、前記第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器を切り離すための切り離しラインが形成されることを要旨とする。

図面の簡単な説明

[0008] [図1]図1は、実施形態に係る香味吸引器パッケージ1の概略斜視図である。
[図2]図2は、図1に示す香味吸引器パッケージ1のA-A断面図である。
[図3]図3は、実施形態に係る香味吸引器10の変形前の概略斜視図である。
[図4]図4は、図3に示す香味吸引器10のB-B断面図である。
[図5]図5は、実施形態に係る香味吸引器10の変形後の概略斜視図である。
[図6]図6は、図5に示す香味吸引器10のC-C断面図である。
[図7]図7は、変形例1に係る香味吸引器パッケージ1Aの概略斜視図である。
。
[図8]図8は、変形例2に係る香味吸引器パッケージ1Bの概略斜視図である。
。
[図9]図9は、変形例3に係る香味吸引器パッケージ1Cの概略斜視図である。
。
[図10]図10は、変形例4に係る香味吸引器パッケージ1Dの概略斜視図である。

[図11]図 1 1 は、変形例 5 に係る香味吸引器パッケージ 1 E の概略斜視図である。

[図12]図 1 2 は、変形例 6 ～ 9 に係る香味吸引器 1 0 の概略斜視図である。

[図13]図 1 3 は、変形例 1 0 に係る香味吸引器 1 0 を示した図である。

[図14]図 1 4 は、図 1 3 に示す香味吸引器 1 0 の E - E 断面図である。

発明を実施するための形態

[0009] 次に、本発明の実施形態について説明する。なお、以下の図面の記載において、同一または類似の部分には、同一または類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率などは現実のものとは異なることに留意すべきである。

[0010] したがって、具体的な寸法などは以下の説明を参酌して判断すべきものである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれていることは勿論である。

[0011] (1) 香味吸引器パッケージの構成

図 1 から図 6 に基づいて、香味吸引器パッケージの構成について説明する。図 1 は、実施形態に係る香味吸引器パッケージ 1 の概略斜視図である。図 2 は、図 1 に示す香味吸引器パッケージ 1 の A - A 断面図である。図 3 から図 6 は、香味吸引器パッケージ 1 を構成する物品（ここでは、香味吸引器 1 0）を示した図である。

[0012] 香味吸引器パッケージ 1 は、複数の香味吸引器 1 0 と、香味発生源の燃焼を伴わずに香味を吸引する非燃焼型であり、複数の香味吸引器 1 0 を連結する支持体 2 0 とを有する。複数の香味吸引器 1 0（第 1 香味吸引器 1 0 A、第 2 香味吸引器 1 0 B、第 3 香味吸引器 1 0 C、第 4 香味吸引器 1 0 D、及び第 5 香味吸引器 1 0 E）のうち、隣接する 1 対の香味吸引器 1 0 は、互いに連結されている。第 1 実施形態では、複数の香味吸引器 1 0（後述するホルダ 1 2）のそれぞれは、支持体 2 0 に接合されている。各香味吸引器 1 0 は、支持体 2 0 から別々に分離可能である。

[0013] 支持体 2 0 は、1 枚のシート材によって構成されており、折り目 2 0 L を

基点に二つに折り畳まれている。支持体 20 は、二つに折り畳まれた状態で対向する内面 20 a、20 b を有する。内面 20 a、20 b のうち一方の内面 20 a の一部と香味吸引器 10 の一部とは、接合されている。香味吸引器 10 には、切り離しライン 16（例えば、ミシン目）が形成されている。香味吸引器 10 は、切り離しライン 16 で支持体 20 から分離可能に構成されている。図 3 から図 6 は、支持体 20 から分離した香味吸引器 10 を示している。

[0014] 香味吸引器 10 は、内体 11 と、ホルダ 12 と、を有する。内体 11 は、香味発生源 13 を内包する袋体である。内体 11 は、通気性及び可撓性を有する材質によって構成されている。通気性は、空気が通過可能であり、かつ、内体 11 に内包した香味発生源 13 の香味成分を通過可能に構成されていればよい。可撓性は、ユーザが香味吸引器を指等で把持した際に変形可能であればよい。

[0015] なお、内体 11 は、通気性及び上述の可撓性を有していればよく、不織布、織物、多孔質のシート材を用いることができる。

[0016] ホルダ 12 は、可撓性を有する 1 枚のシート材によって構成されている。可撓性は、ユーザが香味吸引器を指等で把持した際に変形可能であればよい。また、ホルダ 12 の通気性が高過ぎると、吸引時にホルダ 12 の周囲から内体 11 内へ空気が流入し、香味発生源への通気量が減少するおそれがある。よって、ホルダ 12 は、上述の可撓性を有し、かつ香味発生源への空気の流入を妨げない程度に低い通気性を有していればよく、紙、不織布、織物、多孔質のシート材を用いることができる。

[0017] ホルダ 12 は、二以上の平行な折り目（例えば、第 1 折り目 L1、第 2 折り目 L2）を基点に折り畳まれることによって、内体 11 を囲む。ホルダ 12 の内周は、内体の外周よりも長い。ホルダ 12 の一部と、内体 11 の一部とは、接合されている。図 2 等において、ホルダ 12 の一部と内体 11 の一部とが接合された接合部 14 を図示する。

[0018] なお、実施形態において、ホルダ 12 の折り目に沿う方向を軸方向 X とし

、軸方向Xと直交する方向を幅方向Yとする（図1参照）。ホルダ12の軸方向Xの両端部には、開口19が形成される。開口19は、ユーザが香味発生源を吸引する際の吸い口となる。ホルダ12は、内体11に内包された香味発生源を吸引する吸い口を有するホルダである。ユーザは、ホルダ12の開口19を介して、内体11の外方から空気を吸引し、内体11に内包された香味発生源13の香味成分を吸引する。

[0019] 内体11の一部とホルダ12の一部とは、接合部14において接合されている。言い換えると、香味発生源13は、内体11の一部を介して、ホルダ12の一部と接合部14において接合される。と内体11及びホルダ12は、いずれも可撓性を有しており、ユーザが適宜変形可能に構成されている。例えば、内体11とホルダ12とが接着されていない場合には、ホルダ12から内体11が抜けてしまったり、ホルダ12と内体11の位置がずれたりして、ユーザが安定して香味成分を吸引できないおそれがある。しかし、接合部14が設けられていることにより、ホルダ12から内体11が抜けることを防止し、かつ、ホルダ12と内体11の位置がずれることを抑制し、安定した吸引が可能となる。

[0020] ホルダ12は、第1折り目L1を基点に折り畳まれた後、第1折り目L1と平行な第2折り目L2を基点に折り畳まれている。ホルダ12は、第1折り目L1及び第2折り目L2を基点に折り畳まれる前の状態（展開状態）において、第1折り目L1よりも幅方向Y外側に位置する第1領域FA（図4参照）と、第2折り目L2よりも幅方向Y外側に位置する第2領域SA（図2参照）と、第1折り目L1と第2折り目L2との間の中央領域CA（図4参照）と、を有する。第1領域FAは、第1折り目L1を基点に折り畳まれる領域である。第2領域SAは、第2折り目L2を基点に折り畳まれる領域である。

[0021] ホルダ12が第1折り目L1及び第2折り目L2を基点に折り畳まれた状態で、ホルダ12の第1領域FAの外側に、ホルダ12の第2領域SAが位置する。ホルダ12は、第1領域FAと第2領域とが重なる重畳領域を有す

る。好ましくは、ホルダ 12 は、重畳領域の少なくとも一部において互いに接合されている。図 3 及び図 4 等において、重畳領域においてホルダ 12 同士が接合された接合部 18 を図示する。このように、重畳領域の少なくとも一部においてホルダ 12 同士が接合されているため、意図せずにホルダ 12 が展開することを防止し、内体の露出を防止できる。

[0022] なお、接合部 14 の構成は、図 3 及び図 4 に示す形態に限定されない。例えば、接合部 14 は、ホルダ 12 の折り目と平行設けられていてもよい。また、接合部 14 の形状は、矩形に限定されず、ライン状であってもよいし、ドット状であってもよい。

[0023] 図 2 に示すように、切り離しライン 16 を介して分離する前の状態において、ホルダ 12 の第 2 領域 SA の幅方向 Y の長さは、ホルダ 12 の中央領域 CA の幅方向 Y の長さよりも長い。よって、ホルダ 12 が第 1 折り目 L1 及び第 2 折り目 L2 を基点に折り畳まれた状態で、ホルダ 12 の第 2 領域の幅方向 Y の外側端部は、第 2 折り目 L2 及び中央領域 CA よりも幅方向 Y 外側に延出している。第 2 折り目 L2 及び中央領域 CA よりも幅方向 Y 外側に位置する外側領域 OA において、ホルダ 12 の第 2 領域 SA の一部と、支持体 20 の内面 20a の一部とが接合されている。図 2 において、ホルダ 12 の一部と支持体 20 の一部とが接合された接合部 17 を図示する。

[0024] ホルダ 12 の第 2 領域 SA には、切り離しラインとしての切り離しライン 16 が形成されている。切り離しライン 16 は、折り目と平行に形成されている。ホルダ 12 は、切り離しライン 16 を介して幅方向 Y に 2 つに分離可能である。切り離しライン 16 を介して分離したホルダ 12 の一部は、支持体 20 に接合されている。ホルダ 12 の他部は、内体及び香味発生源を内包した状態で支持体から分離する。ユーザは、支持体から分離した香味吸引器 10 を使用する。

[0025] なお、支持体 20 とホルダ 12 の接合方法及び内体 11 とホルダ 12 の接合方法は、熱溶着（ヒートシール）や接着剤を例示でき、種々の接合方法を用いることができる。例えば、紙等の基材の表面に熱可塑性樹脂を積層した

ラミネートフィルムからなる支持体やホルダ 12 を用いる場合は、被接合体上に当接した状態で熱溶着することにより、容易に接合することができる。

[0026] 第 1 香味吸引器 10A から第 5 香味吸引器 10E は、一部重なり合った状態で、幅方向 Y に隣接して支持体 20 に接合されている。第 1 香味吸引器 10A の一部と、第 2 香味吸引器 10B の一部と、は重なっている。具体的には、香味吸引器 10 の厚み方向において、第 1 香味吸引器 10A の第 2 領域の一部である外側領域 OA は、支持体 20 と、第 2 香味吸引器 10B の中央領域と、の間に位置する。同様に、第 2 香味吸引器 10B の一部と、第 3 香味吸引器 10C の一部と、が重なっており、第 3 香味吸引器 10C の一部と、第 4 香味吸引器 10D の一部と、が重なっており、第 4 香味吸引器 10D の一部と、第 5 香味吸引器 10E の一部と、が重なっている。

[0027] 香味吸引器 10 は、幅方向 Y の寸法よりも軸方向 X の寸法が長い。よって、複数の香味吸引器 10 が軸方向 X に隣接すると、香味吸引器パッケージ 1 の軸方向 X の寸法が長く、ポケット等に収納し難くなることがある。しかし、複数の香味吸引器が幅方向 Y に隣接するため、比較的長尺な香味吸引器をバランスよく纏めることができ、香味吸引器パッケージ 1 を小型化できる。

[0028] また、幅方向 Y に隣接する香味発生源 13 を収容する内体 11 同士（例えば、第 1 香味吸引器 10A の内体 11 と第 2 香味吸引器 10B の内体 11）は、幅方向 Y に間隔を空けて配置されている。内体 11 には、香味発生源 13 が収納されている。香味発生源 13 を収納した部分の厚みは、香味発生源 13 を収納していない部分の厚みよりも厚い。よって、内体 11 同士が重なると、厚みが厚くなり、香味吸引器パッケージ 1 全体の厚みが厚くなることがある。しかし、内体 11 同士が重ならないように香味吸引器 10 が配置されているため、内体 11 が重なることによる厚みの増加を抑制することができる。

[0029] （2）非加熱型香味吸引器の使用態様

次いで、図 3 から図 6 に基づいて、香味吸引器 10 の使用態様を説明する。図 3 は、支持体 20 から分離され、かつ使用前の香味吸引器 10 の概略斜

視図であり、図4は、図3に示すB-B断面図である。図3及び図4に示す状態では、ホルダ12及び内体11は、厚み方向において密着している。

[0030] 香味吸引器10を使用する際は、例えば、ユーザが、折り畳まれた状態のホルダ12の第1折り目L1と第2折り目L2を指で把持して、第1折り目L1と第2折り目L2が近づくようにホルダ12を押圧する。このように指でホルダ12を押圧することにより、ホルダ12と内体11が変形し、ホルダ12の中央領域CAとホルダ12の第1領域FAとの間に空隙が形成される。このように変形することにより、ホルダ12の断面形状と内体11の断面形状が略円形となる。ホルダ12の中央領域CAとホルダ12の第1領域FAとの間の空隙は、空気が通過可能な空気流路となる。

[0031] このとき、内体11は、ホルダ12の第1折り目L1と第2折り目L2の間の中央領域CAと、第1折り目L1と第2折り目L2との間の第1領域FAと、に接着されている。よって、ホルダ12の中央領域CAと第1領域FAの変形に追従して内体11も変形する。よって、ホルダ12の内面に沿って内体11が配置される。

[0032] ホルダ12と内体11の断面形状が略円形となった状態で、ユーザは、ホルダ12の一方の開口19を吸い口として空気を吸い込む。これにより、他方の開口からホルダ12の空隙に空気が流入する。ホルダ内面には、接合部14を介して内体11が接着されているため、ホルダ12の空隙を通過する空気は、内体11内を通過し、内体11内に配置された香味発生源13の香味成分をユーザに付与する。

[0033] 本実施形態に係る香味吸引器パッケージ1によれば、複数の香味吸引器10のそれぞれが支持体20に接合されており、各香味吸引器10に形成された切り離しライン16を介して、香味吸引器10毎に支持体20から分離させることができる。よって、1つの香味吸引器10を取り出した際に、他の香味吸引器10が同時に取り出されることがなく、各香味吸引器10を別々に分離することができる。

[0034] また、各香味吸引器10は、香味発生源13を収納した内体11の一部と

ホルダ 12 の一部とが接合されており、構成部材が一体化している。よって、支持体 20 から香味吸引器 10 を分離した後に、他の部材を巻き付けたり他の部材に収納したり等の作業が不要である。ユーザは、支持体 20 から香味吸引器 10 を分離した後に、煩雑な作業を要することなく使用することができ、使用性の悪化を抑制できる。

[0035] また、香味吸引器 10 の切り離しライン 16 は、ホルダが折り目を基点に折り畳まれた状態において、第 1 折り目の L1 と第 2 折り目 L2 間に位置する。切り離しライン 16 が第 1 折り目 L1 と第 2 折り目 L2 の間に配置されているため、ホルダ 12 の切り離しライン 16 が第 1 折り目 L1 と第 2 折り目 L2 の間に位置する。

[0036] ユーザが香味吸引器 10 を使用する際は、香味吸引器 10 の一对の折り目を把持することがある。ホルダ 12 の切り離しライン 16 が一对の折り目と重なっていたり、一对の折り目よりも幅方向 Y 外側に位置すると、ユーザの指がホルダ 12 の切り離しライン 16 に当たり、ユーザに刺激を与えるおそれがある。しかし、ホルダ 12 の切り離しライン 16 が第 1 折り目 L1 と第 2 折り目 L2 の間に位置するため、ホルダ 12 の切り離しライン 16 がユーザの指に直接当たることを抑制できる。

[0037] 以上説明したように、第 1 実施形態に係る香味吸引器パッケージ 1 は、互いに連結された複数の非燃焼型香味吸引器 10（第 1 非燃焼型香味吸引器及び第 2 非燃焼型香味吸引器）を少なくとも含む。第 1 非燃焼型香味吸引器及び第 2 非燃焼型香味吸引器のそれぞれは、香味発生源 13（香味発生源 13 を収容する内体 11）と、所定方向（軸方向 X）に沿って延びる空気流路を形成可能な可撓性を有するホルダ 12 とを有する。香味発生源 13（香味発生源 13 を収容する内体 11）は、ホルダ 12 によって空気流路が形成された状態において、空気流路内に収容されるように構成される。香味発生源 13（香味発生源 13 を収容する内体 11）の一部は、ホルダ 12 の一部と接合される。第 1 非燃焼型香味吸引器及び第 2 非燃焼型香味吸引器を切り離すための切り離しライン 16 が形成される。

[0038] また、第1実施形態に係る香味吸引器パッケージ1において、ホルダ12は、所定方向（軸方向X）に沿って延びる2以上の折り目（折り目L1及び折り目L2）を基点として折り畳まれるように構成されたシート形状を有する。2以上の折り目を基点としてホルダ12が折り畳まれた状態において、空気流路が形成される。

[0039] （3）変形例1に係る香味吸引器パッケージ

次いで、図7に基づいて変形例に係る香味吸引器パッケージ1Aについて説明する。図7は、変形例1に係る香味吸引器パッケージ1Aの概略斜視図である。なお、以下の変形例の説明においては、実施形態の香味吸引器パッケージと異なる構成のみを説明し、実施形態と同様の構成については、同符号を用いて説明を省略する。

[0040] 変形例1に係る香味吸引器パッケージ1Aは、支持体20を備えず、複数の香味吸引器10同士が直接連結されている。具体的には、第1香味吸引器10Aのホルダ12と第2香味吸引器10Bのホルダ12とが、切り離しライン16を介して連結されている。第1香味吸引器10Aと第2香味吸引器10Bは、幅方向Yに隣接している。切り離しライン16は、第1香味吸引器10Aと第2香味吸引器10Bとの境界に位置し、ホルダ12の折り目と平行である。

[0041] 変形例1に係る香味吸引器パッケージ1Aによれば、支持体を備えていないため、より小型化することができる。また、変形例1に係る香味吸引器パッケージ1Aは、複数の香味吸引器が連結された状態で切り離しライン16を基点として折り畳むことができ、複数の香味吸引器が連結された状態で折り畳む際に支持体の影響を受けない。よって、ユーザは、容易に所望の形状や大きさに香味吸引器パッケージ1Aを変形することができる。

[0042] 以上説明したように、変更例1に係る香味吸引器香味吸引器パッケージ1Aにおいて、複数の非燃焼型香味吸引器10（第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器）は、第1非燃焼型香味吸引器の所定方向（軸方向X）及び第2非燃焼型香味吸引器の所定方向（軸方向X）が平行となるよう

に、所定方向（軸方向X）に対する直交方向（幅方向Y）に並んでいる。第1非燃烧型香味吸引器のホルダ12及び第2非燃烧型香味吸引器のホルダ12は、互いに連結される。切り離しライン16は、第1非燃烧型香味吸引器のホルダ12及び第2非燃烧型香味吸引器のホルダ12の境目に形成されており、所定方向（軸方向X）に沿って延びる。

[0043] 変更例1によれば、ホルダ12が重なり合う部位に切り離しライン16が形成されていないため、後述する変更例3と比べて、切り離しライン16に沿って香味吸引器10を分離する際に、香味吸引器10を分離しやすいことに留意すべきである。

[0044] （4）変形例2に係る香味吸引器パッケージ

[0045] 次いで、図8に基づいて変形例2に係る香味吸引器パッケージ1Bについて説明する。図8は、変形例2に係る香味吸引器パッケージ1Bの概略斜視図である。変形例2に係る香味吸引器パッケージ1Bは、第1香味吸引器10Aと第2香味吸引器10Bが、支持体20を介して連結されており、切り離しライン16が、第1香味吸引器のホルダ及び第2香味吸引器のホルダに形成されている。

[0046] 切り離しライン16は、ホルダ12の両端部に設けられた開口19のうち、少なくとも一方の開口に形成されている。開口19は、折り目と平行なホルダ12の端部よりも短い。よって、変形例2に係る香味吸引器パッケージ1Bは、折り目と平行なホルダ12の端部に切り離しライン16が形成された香味吸引器パッケージよりも切り離しライン16を介して分離する部分が短く、ユーザは、香味吸引器を容易に支持体20から分離することができる。

[0047] 以上説明したように、変更例2に係る香味吸引器香味吸引器パッケージ1Bにおいて、複数の非燃烧型香味吸引器10（第1非燃烧型香味吸引器及び第2非燃烧型香味吸引器）は、第1非燃烧型香味吸引器の所定方向（軸方向X）及び第2非燃烧型香味吸引器の所定方向（軸方向X）が平行となるように、所定方向（軸方向X）に対する直交方向（幅方向Y）に並んでいる。第

第1非燃烧型香味吸引器及び第2非燃烧型香味吸引器は、第1非燃烧型香味吸引器及び第2非燃烧型香味吸引器を支持する支持体20を介して互いに連結されている。支持体20は、第1非燃烧型香味吸引器のホルダ12の一端及び第2非燃烧型香味吸引器のホルダ12の一端を支持する。切り離しライン16は、第1非燃烧型香味吸引器のホルダ12と支持体20との境目において第1非燃烧型香味吸引器のホルダ12に形成されており、第2非燃烧型香味吸引器のホルダ12と支持体20との境目において、第2非燃烧型香味吸引器のホルダ12に形成されている。切り離しライン16は、所定方向（軸方向X）に対する直交方向（幅方向Y）に沿って延びる。

[0048] （5）変形例3に係る香味吸引器パッケージ

[0049] 次に、図9に基づいて変形例3に係る香味吸引器パッケージ1Cについて説明する。図9は、変形例3に係る香味吸引器パッケージ1Cの概略斜視図である。変形例3に係る香味吸引器パッケージ1Cは、支持体20を備えず、複数の香味吸引器10同士が、切り離しライン16を介して連結されている。切り離しライン16は、ホルダ12の軸方向Xの両端部に形成されている。複数の香味吸引器10は、支持体20を介さずに軸方向Xに隣接して配置されている。よって、変形例3に係る香味吸引器パッケージ1Cは、支持体20を備えていないため、より小型化することができる。変形例3に係る香味吸引器パッケージ1Cは、複数の香味吸引器10が連結された状態で切り離しライン16を基点として折り畳むことができ、複数の香味吸引器10が連結された状態で折り畳む際に支持体20の影響を受けない。よって、ユーザは、容易に所望の形状や大きさに香味吸引器パッケージ1Cを变形することができる。

[0050] 以上説明したように、変更例3に係る香味吸引器パッケージ1Cにおいて、複数の非燃烧型香味吸引器10（第1非燃烧型香味吸引器及び第2非燃烧型香味吸引器）は、第1非燃烧型香味吸引器の所定方向（軸方向X）及び第2非燃烧型香味吸引器の所定方向（軸方向X）が同一延長線上に設けられるように、所定方向（軸方向X）に並んでいる。第1非燃烧型香味吸引器のホ

ルダ 12 及び第 2 非燃焼型香味吸引器のホルダ 12 は、互いに連結されている。切り離しライン 16 は、第 1 非燃焼型香味吸引器のホルダ 12 及び第 2 非燃焼型香味吸引器のホルダ 12 の境目に形成されており、所定方向（軸方向 X）に対する直交方向（幅方向 Y）に沿って延びる。

[0051] 変更例 3 によれば、上述した変更例 1 と比べて、切り離しライン 16 の全長が短いことに留意すべきである。

[0052] （6）変形例 4 に係る香味吸引器パッケージ

[0053] 次いで、図 10 に基づいて変形例 4 に係る香味吸引器パッケージ 1D について説明する。図 10 は、変形例 4 に係る香味吸引器パッケージ 1D の概略斜視図である。変形例 4 に係る香味吸引器パッケージ 1D は、切り離しライン 16 が支持体 20 に形成されている。第 1 香味吸引器 10A と第 2 香味吸引器 10B は、幅方向 Y に隣接して配置されている。支持体 20 は、複数の香味吸引器 10 を跨がって配置された 1 枚のシート材によって構成されている。支持体と各香味吸引器 10 は、それぞれ接合されている。支持体 20 の切り離しライン 16 は、第 1 香味吸引器 10A と第 2 香味吸引器 10B との境界に対応する位置に形成されている。支持体の切り離しライン 16 は、ホルダ 12 の軸方向 X に沿って形成されている。支持体 20 が切り離しライン 16 を介して分離することにより、1 つの香味吸引器 10 を支持体 20 の一部と共に、他の香味吸引器 10 及び支持体 20 の他部から分離できる。

[0054] このように支持体 20 に切り離しライン 16 を設けることにより、分離した後の切り離しライン 16 が支持体 20 に形成され、香味吸引器 10 自体に形成されない。例えば、分離した後の切り離しライン 16 が香味吸引器 10 自体に形成されている場合には、ユーザが香味吸引器 10 を使用する際に、指等が切り離しライン 16 に当たることがある。しかし、支持体 20 に切り離しラインを設けることにより、分離した後の切断部がユーザに当たることを防止できる。

[0055] 以上説明したように、変更例 4 に係る香味吸引器パッケージ 1D において、複数の非燃焼型香味吸引器 10（第 1 非燃焼型香味吸引器及び第 2 非燃焼

型香味吸引器)は、第1非燃烧型香味吸引器及び第2非燃烧型香味吸引器を支持する支持体20を介して互いに連結されている。分離ライン16は、支持体20に形成される。

[0056] (7) 変形例5に係る香味吸引器パッケージ

[0057] 次いで、図11に基づいて変形例5に係る香味吸引器パッケージ1Eについて説明する。図11は、変形例5に係る香味吸引器パッケージ1Eの概略斜視図である。変形例5に係る香味吸引器パッケージ1Eは、切り離しライン16が、支持体20に形成されている。支持体20には、切断部21と、切断部21を繋ぐ切り離しライン16と、が形成されている。切断部21は、予め支持体に形成されている。支持体の切断部21と切り離しライン16とによって囲まれた部分は、支持体20の周囲の部分から分離する。各香味吸引器10は、支持体20の切断部21と切り離しライン16とによって囲まれた部分に接合されている。よって、支持体20が切り離しライン16を介して分離することにより、1つの香味吸引器10を支持体20の一部と共にともに、他の香味吸引器10及び支持体20の他部から分離できる。

[0058] このように支持体20に切り離しライン16を設けることにより、分離した後の切り離しライン16が支持体20に形成され、香味吸引器10自体に形成されない。例えば、分離した後の切り離しライン16が香味吸引器10自体に形成されている場合には、ユーザが香味吸引器10を使用する際に、指等が切り離しライン16に当たることがある。しかし、支持体20に切り離しライン16を設けることにより、分離した後の切り離しライン16がユーザに当たることを防止できる。

[0059] 以上説明したように、変更例5に係る香味吸引器パッケージ1Eにおいて、複数の非燃烧型香味吸引器10(第1非燃烧型香味吸引器及び第2非燃烧型香味吸引器)は、第1非燃烧型香味吸引器及び第2非燃烧型香味吸引器を支持する支持体20を介して互いに連結されている。分離ライン16は、支持体20に形成される。

[0060] (8) 変形例に係る香味吸引器

なお、香味吸引器のホルダ 12 は、本実施形態の構成に限られない。図 12 は、変形例に係る香味吸引器 10 を示した図である。図 12 は、図 3 に示す D 矢視を基準とした香味吸引器 10 の側面図であり、切り離しライン 16 を介して分離された状態の香味吸引器 10 を示している。

[0061] 図 12 (a) は、変形例 6 に係る香味吸引器 10 F を示している。変形例 6 に係る香味吸引器 10 F のホルダ 12 は、切り離しライン 16 を介して分離された状態で、第 2 領域の幅方向 Y の長さ a が、中央領域の幅方向 Y の長さ（第 1 折り目 L1 と第 2 折り目 L2 との距離）よりも長い。

[0062] 変形例 6 に係る香味吸引器 10 F を使用する際は、第 1 折り目 L1 に重なる位置を基点にホルダ 12 の第 2 領域を折り畳む。ホルダ 12 は、第 1 折り目 L1、第 2 折り目及び第 3 折り目（第 1 折り目 L1 に重なる位置の折り目）を基点に折り畳まれる。この状態で、ユーザが第 3 折り目と第 2 折り目 L2 とが近づくように押圧することにより、香味吸引器 10 F は、筒状に変形される。

[0063] 図 12 (b) は、変形例 7 に係る香味吸引器 10 G を示した図である。変形例 7 に係る香味吸引器 10 G は、切り離しライン 16 を介して支持体 20 又は他の香味吸引器 10 から分離された状態で、第 2 領域の幅方向 Y の長さ a と、中央領域の幅方向 Y の長さ（第 1 折り目 L1 と第 2 折り目 L2 との距離）b と、が同じ長さである。

[0064] 本実施形態に係る香味吸引器 10 G は、ホルダ 12 が第 1 折り目 L1 と第 2 折り目 L2 を基点に折り畳まれた状態で支持体 20 に接合されているが、この構成に限られない。

[0065] 図 12 (c) は、変形例 8 に係る香味吸引器 10 H を示した図である。変形例 8 に係る香味吸引器 10 H は、切り離しライン 16 を介して支持体 20 又は他の香味吸引器 10 から分離された状態で、ホルダ 12 が第 1 折り目 L1 のみを基点に折り畳まれている。変形例 8 に係る香味吸引器 10 H によれば、第 1 折り目及び第 2 折り目を基点に折り畳まれた形態と比較して、使用前の状態の厚みを薄くすることができる。

[0066] 図12(d)は、変形例9に係る香味吸引器10Jを示した図である。変形例9に係る香味吸引器10Jは、切り離しライン16を介して支持体20又は他の香味吸引器10から分離された状態で、ホルダ12が折り畳まれている。変形例9に係る香味吸引器10Jによれば、使用前の状態の厚みを更に薄くすることができる。

[0067] また、他の形態として、香味吸引器10Jは、切り離しライン16を介して支持体20又は他の香味吸引器10から分離された状態で、ホルダ12が第1折り目L1及び第2折り目L2と平行な第3折り目を基点に折り畳まれている。

[0068] また、実施形態に係る香味吸引器は、内体11としての袋体内に香味発生源13が収容されているが、この構成に限られない。図13及び図14は、変形例10に係る香味吸引器10Kを示した図である。図13は、変形例10に係る香味吸引器10Kの概略斜視図であり、図14は、図13に示すE-E断面図である。

[0069] 変形例10に係る香味吸引器10Kは、板状の香味発生源からなる内体11Aを備える。ホルダ12Aは、3枚のシート材（第1シート材12c、第2シート材12d、及び第3シート材12e）から構成されている。3枚のシート材は、香味吸引器の厚み方向に積層されている。ホルダ12Aの軸方向Xの両端部には、それぞれ開口（第1開口19A、第2開口19B）が形成されている。

[0070] 第1開口19Aは、第1シート材12cと第2シート材12dによって形成されている。第1シート材12cと第2シート材12dは、第1開口19Aを除き、外縁が接合されている。第2開口19Bは、第2シート材12dと第3シート材12eによって形成されている。第2シート材12dと第3シート材12eは、第2開口19Bを除き、外縁が接合されている。

[0071] 第2シート材12dの軸方向X及び幅方向Yの中央には、通気開口12fが形成されている。通気開口12fを塞ぐように、内体11Aと第2シート材12dとが接合されている。

[0072] このように構成された香味吸引器を使用する際は、ユーザは先ず、ホルダ 12 A の幅方向 Y 両端部を指で挟み、ホルダ 12 A を幅方向 Y に圧縮する。これにより、ホルダを構成する第 1 シート材 12 c 及び第 3 シート材 12 e がそれぞれ第 2 シート材 12 d から離間するように変形する。第 1 シート材 12 c 及び第 3 シート材 12 e が変形することにより、図 13 中の 2 点鎖線で示されているようにホルダ 12 A は円筒形状に成形される。この状態で、第 1 シート材と第 2 シート材との間に、第 1 開口 19 A を有する第 1 空気流路が形成され、第 2 シート材と第 3 シート材との間に、第 1 開口 19 A を有する第 2 空気流路が形成される。

[0073] この状態で、ユーザが第 2 開口 19 B を吸口として銜え、第 2 開口 19 B を通じて吸引することにより、図 14 中の矢印で示されるように、ホルダ 12 A に第 1 開口 19 A から第 1 空気流路、通気開口 12 f、内体 11 A、第 2 空気流路及び第 2 開口 19 B に向かう空気の流れが発生される。この空気の流れには香味発生源から放出された香気成分が含まれているので、ユーザは香気成分を味わうことができる。

[0074] 変形例 10 に係る香味吸引器を備える香味吸引器パッケージとしては、例えば、第 1 シート材の軸方向 X の端部や第 2 シート材の軸方向 X の端部に切り離しライン 16 を設ける構成や、ホルダ 12 A の幅方向 Y 端部に切り離しライン 16 を設ける構成や、ホルダ 12 の外周面と支持体とを接合し、支持体 20 の一部に切り離しライン 16 を設ける構成を例示できる。

[0075] (9) その他の変形例

本実施形態では、切り離しライン 16 としてミシン目を挙げているが、その構成に限定されず、周囲の領域よりも強度が低い脆弱部であればよく、ハーフカットなどを設けてもよい。切り離しラインの他の構成としては、ホルダ 12 又は支持体 20 が不織布の場合においては、周囲の領域よりも繊維の目付が低い低目付領域や、延伸加工によって周囲の領域よりも強度が低い延伸領域を挙げることができる。

[0076] また、切り離しライン 16 を介して、一の香味吸引器と支持体又は他の香

味吸引器とを分離する方法として、当該切り離しライン１６を千切る方法のみならず、剥がしたり、引き抜いたりする方法も含まれる。香味発生源は、香味成分を発生するものであり、特に限定されない。具体的には、例えば、たばこ葉を用いることができ、シガレット（紙巻きたばこ）に使用される一般的な刻みたばこ、嗅ぎたばこに使用される粒状たばこ、ロールたばこ、または成形たばこなどのたばこ原料を採用することができる。また、たばこ葉に加えてメンソールなどの香味成分を用いてもよい。

[0077] 上述の実施形態では、ホルダ１２が２以上の折り目を基点に折り畳まれることにより、内体を囲む形状に変形するが、この構成に限られず、筒状に変形することによって内体を囲む形状に変形する構成に含まれる。

[0078] このように、本発明は、ここでは記載していない様々な実施形態などを含むことは勿論である。したがって、本発明の技術的範囲は、上述の説明から妥当な特許請求の範囲に係る発明特定事項によってのみ定められるものである。

[0079] なお、日本国特許出願第２０１２－１９７８７１号（２０１２年９月７日出願）の全内容が、参照により、本願明細書に組み込まれている。

産業上の利用可能性

[0080] 本発明の特徴によれば、複数の物品を纏めた香味吸引器パッケージであって、各香味吸引器を別々に分離することができ、かつ、香味吸引器の使用性の悪化を抑制できる香味吸引器パッケージを提供できる。

請求の範囲

- [請求項1] 互いに連結された第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器を少なくとも含む香味吸引器パッケージであって、
- 前記第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器のそれぞれは、香味発生源と、所定方向に沿って延びる空気流路を形成可能な可撓性を有するホルダとを有しており、
- 前記香味発生源は、前記ホルダによって前記空気流路が形成された状態において、前記空気流路内に収容されるように構成されており、
- 前記香味発生源の一部は、前記ホルダの一部と接合されており、
- 前記第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器を切り離すための切り離しラインが形成されることを特徴とする香味吸引器パッケージ。
- [請求項2] 前記ホルダは、前記所定方向に沿って延びる2以上の折り目を基点として折り畳まれるように構成されたシート形状を有しており、
- 前記2以上の折り目を基点として前記ホルダが折り畳まれた状態において、前記空気流路が形成されることを特徴とする請求項1に記載の香味吸引器パッケージ。
- [請求項3] 前記第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器は、前記第1非燃焼型香味吸引器の前記所定方向及び第2非燃焼型香味吸引器の前記所定方向が平行となるように、前記所定方向に対する直交方向に並んでおり、
- 前記第1非燃焼型香味吸引器の前記ホルダ及び第2非燃焼型香味吸引器の前記ホルダは、互いに連結されており、
- 前記切り離しラインは、前記第1非燃焼型香味吸引器の前記ホルダ及び第2非燃焼型香味吸引器の前記ホルダの境目に形成されており、
- 前記所定方向に沿って延びることを特徴とする請求項1又は請求項2に記載の香味吸引器パッケージ。
- [請求項4] 前記第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器は、前記

第1非燃焼型香味吸引器の前記所定方向及び第2非燃焼型香味吸引器の前記所定方向が同一延長線上に設けられるように、前記所定方向に並んでおり、

前記第1非燃焼型香味吸引器の前記ホルダ及び第2非燃焼型香味吸引器の前記ホルダは、互いに連結されており、

前記切り離しラインは、前記第1非燃焼型香味吸引器の前記ホルダ及び第2非燃焼型香味吸引器の前記ホルダの境目に形成されており、前記所定方向に対する直交方向に沿って延びることを特徴とする請求項1又は請求項2に記載の香味吸引器パッケージ。

[請求項5] 前記第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器は、前記第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器を支持する支持体を介して互いに連結されており、

前記分離ラインは、前記支持体に形成されることを特徴とする請求項1又は請求項2に記載の香味吸引器パッケージ。

[請求項6] 前記第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器は、前記第1非燃焼型香味吸引器の前記所定方向及び第2非燃焼型香味吸引器の前記所定方向が平行となるように、前記所定方向に対する直交方向に並んでおり、

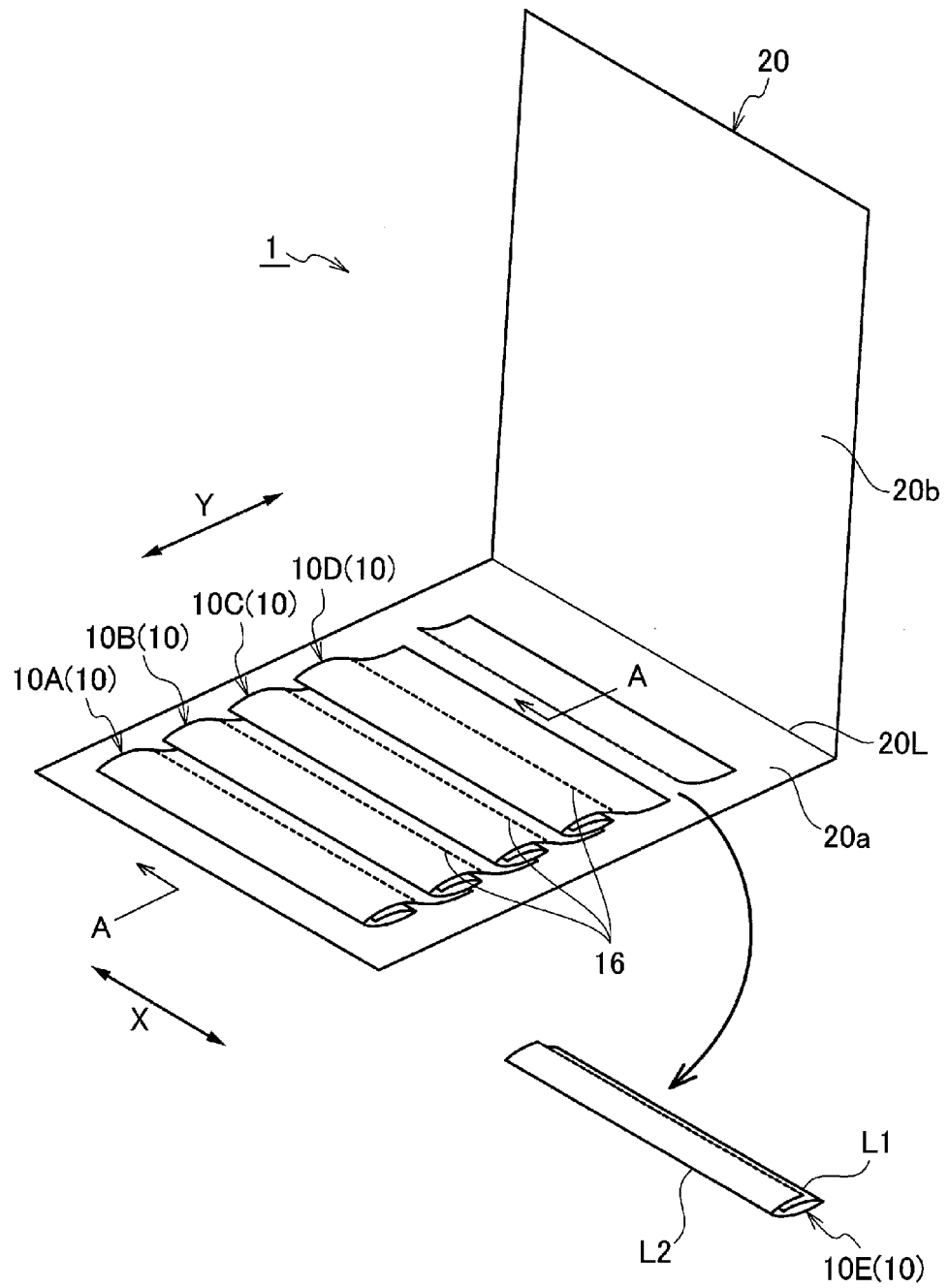
前記第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器は、前記第1非燃焼型香味吸引器及び第2非燃焼型香味吸引器を支持する支持体を介して互いに連結されており、

前記支持体は、前記第1非燃焼型香味吸引器の前記ホルダの一端及び第2非燃焼型香味吸引器の前記ホルダの一端を支持しており、

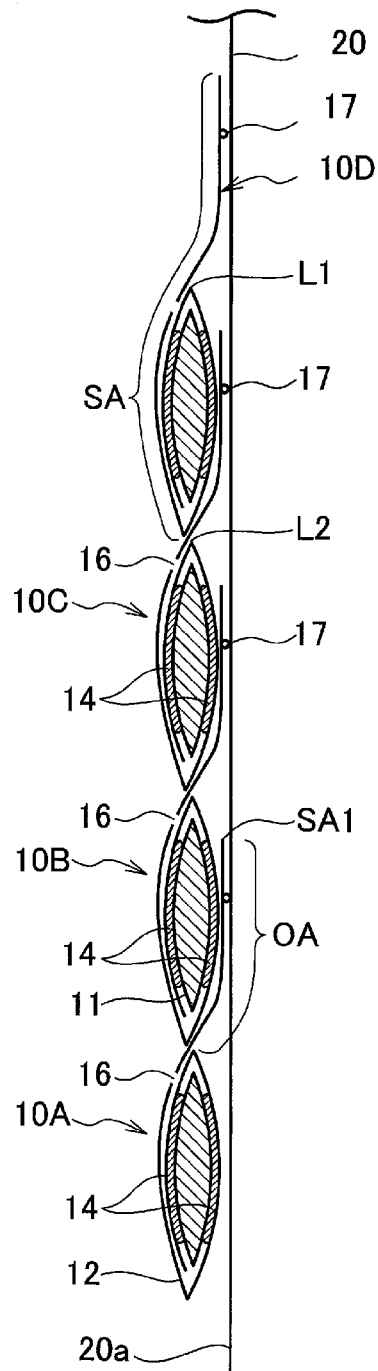
前記切り離しラインは、前記第1非燃焼型香味吸引器の前記ホルダと前記支持体との境目において前記第1非燃焼型香味吸引器の前記ホルダに形成されており、前記第2非燃焼型香味吸引器の前記ホルダと前記支持体との境目において前記第2非燃焼型香味吸引器の前記ホルダに形成されており、

前記切り離しラインは、前記所定方向に対する直交方向に沿って延びることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の香味吸引器パッケージ。

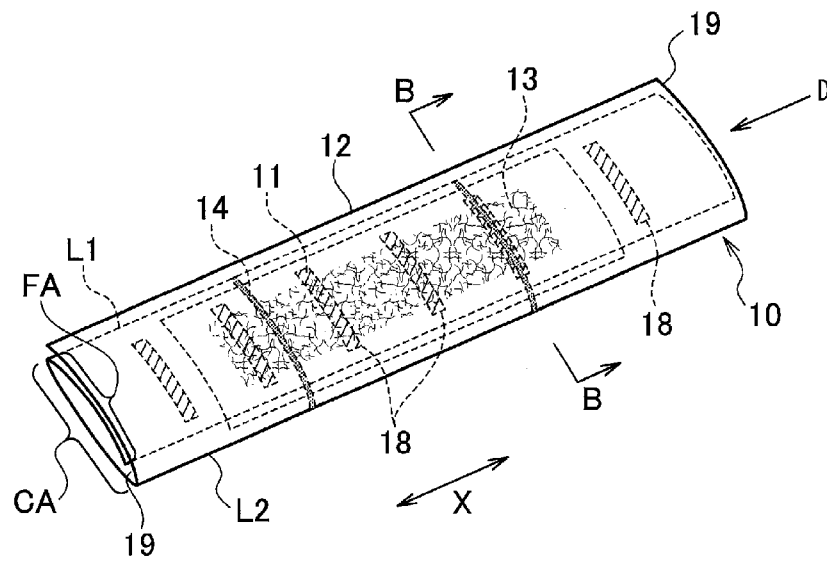
[図1]



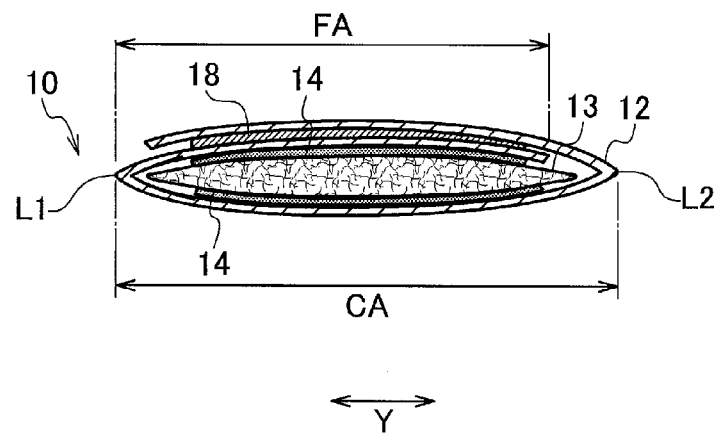
[図2]



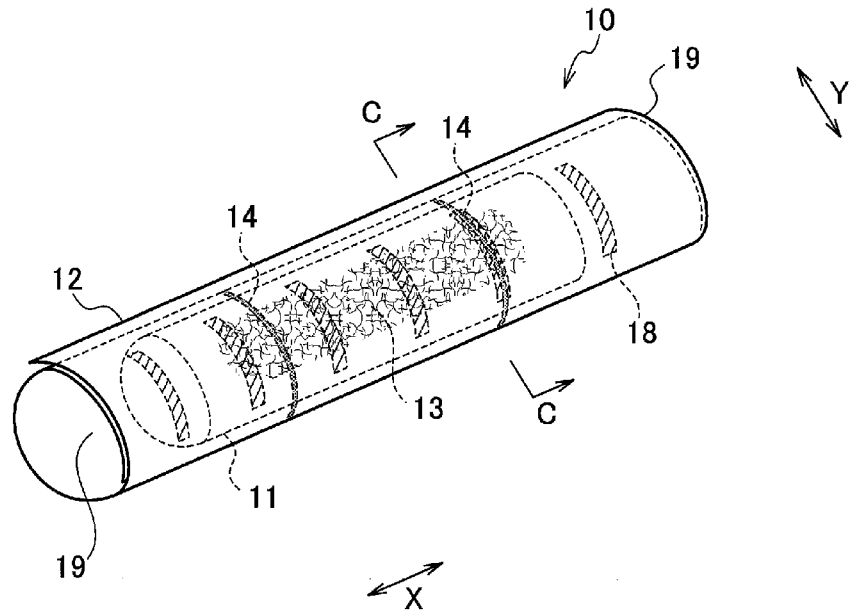
[図3]



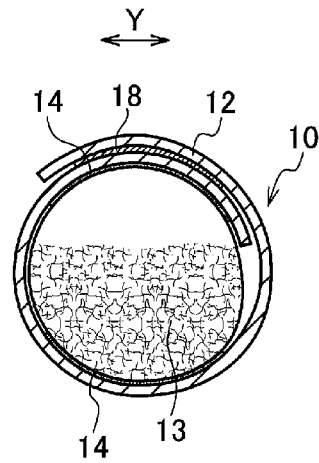
[図4]



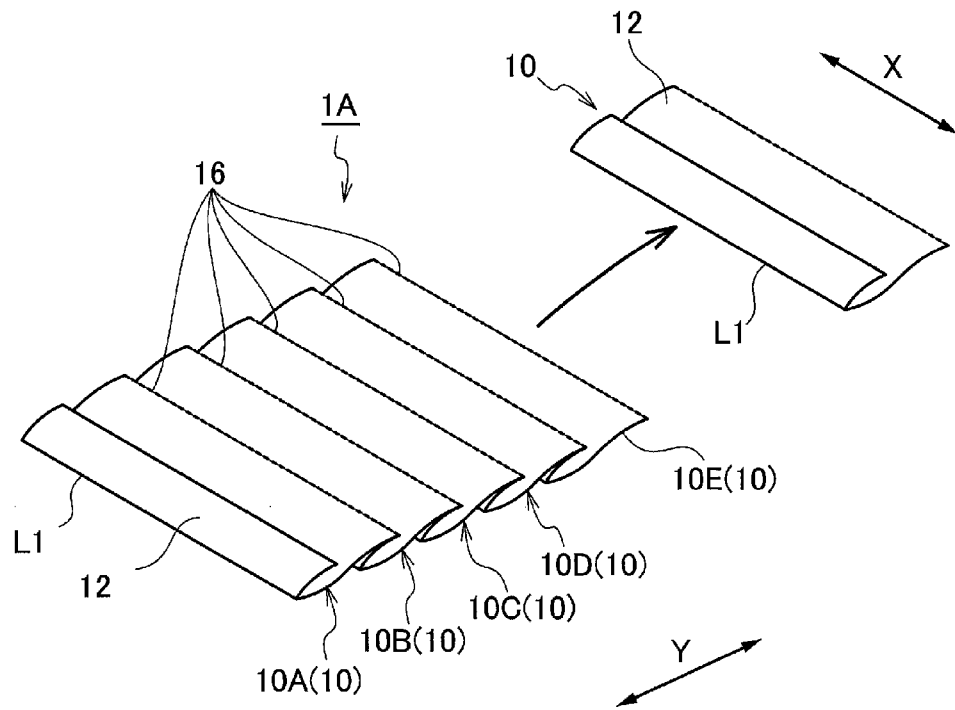
[図5]



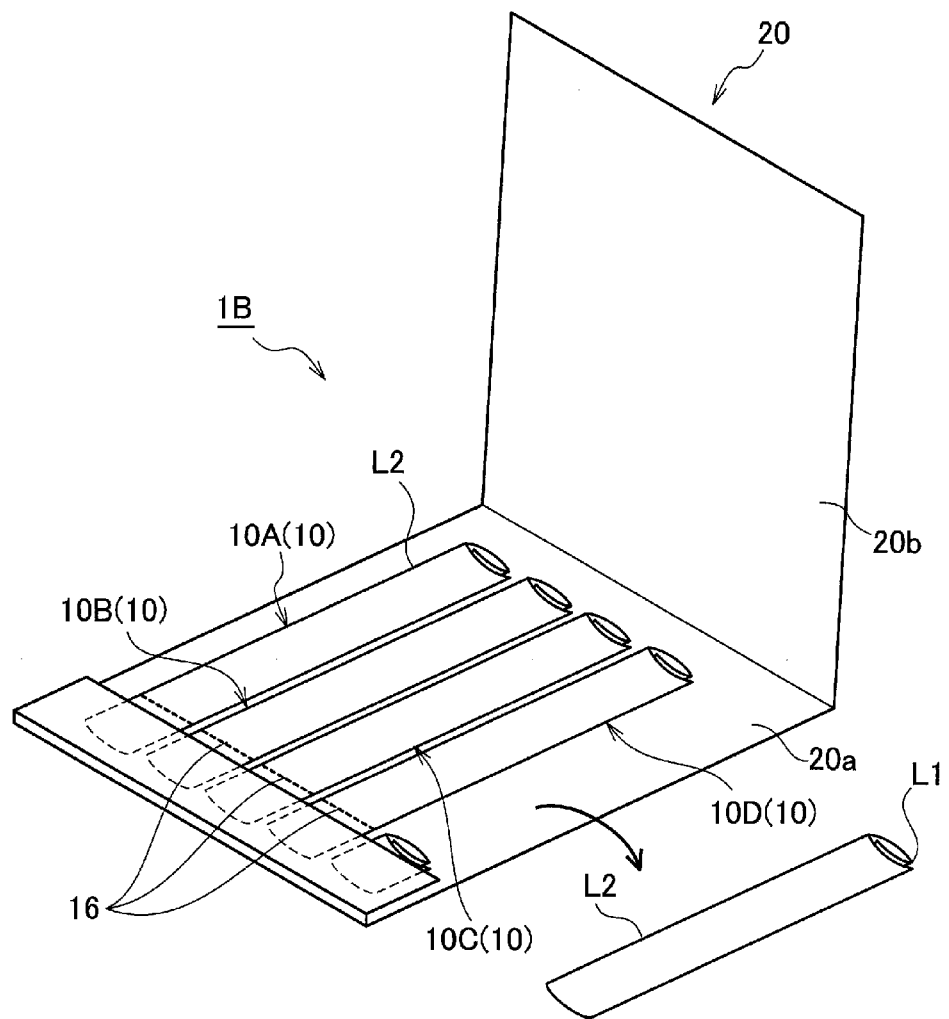
[図6]



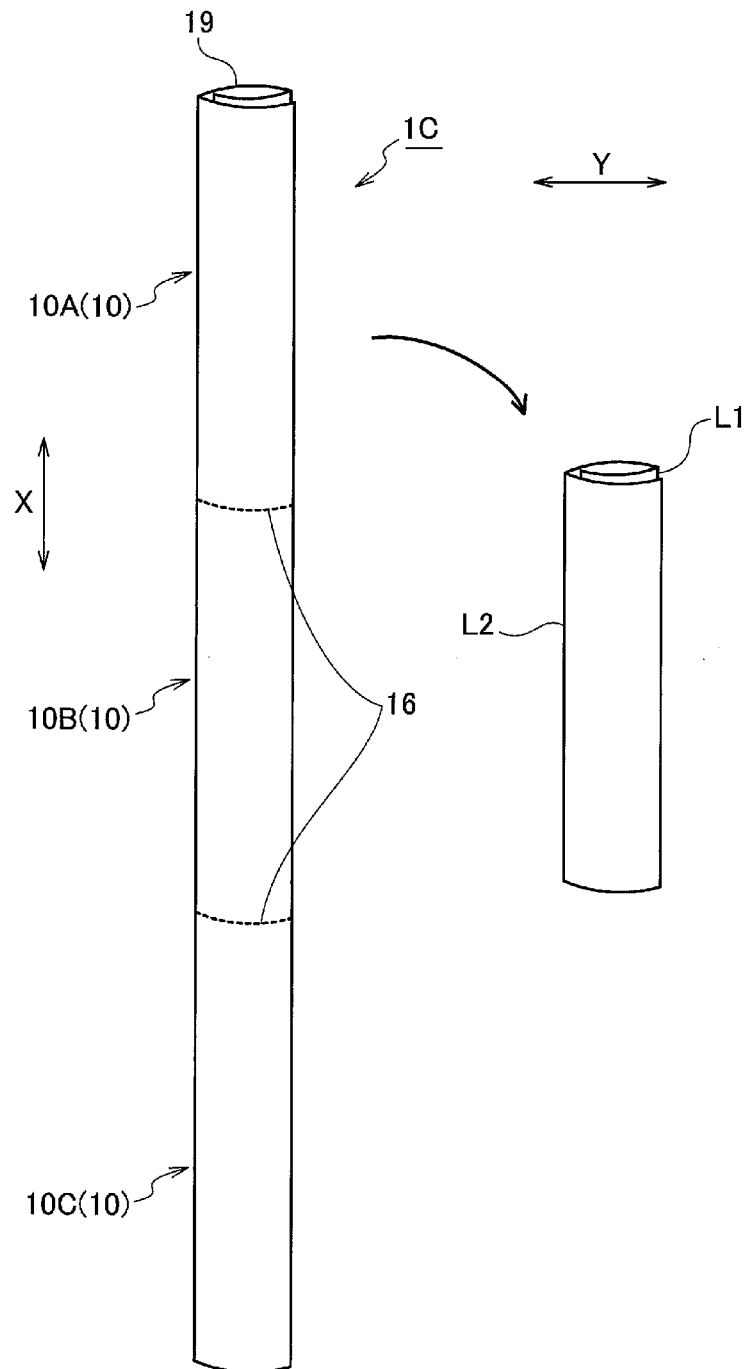
[図7]



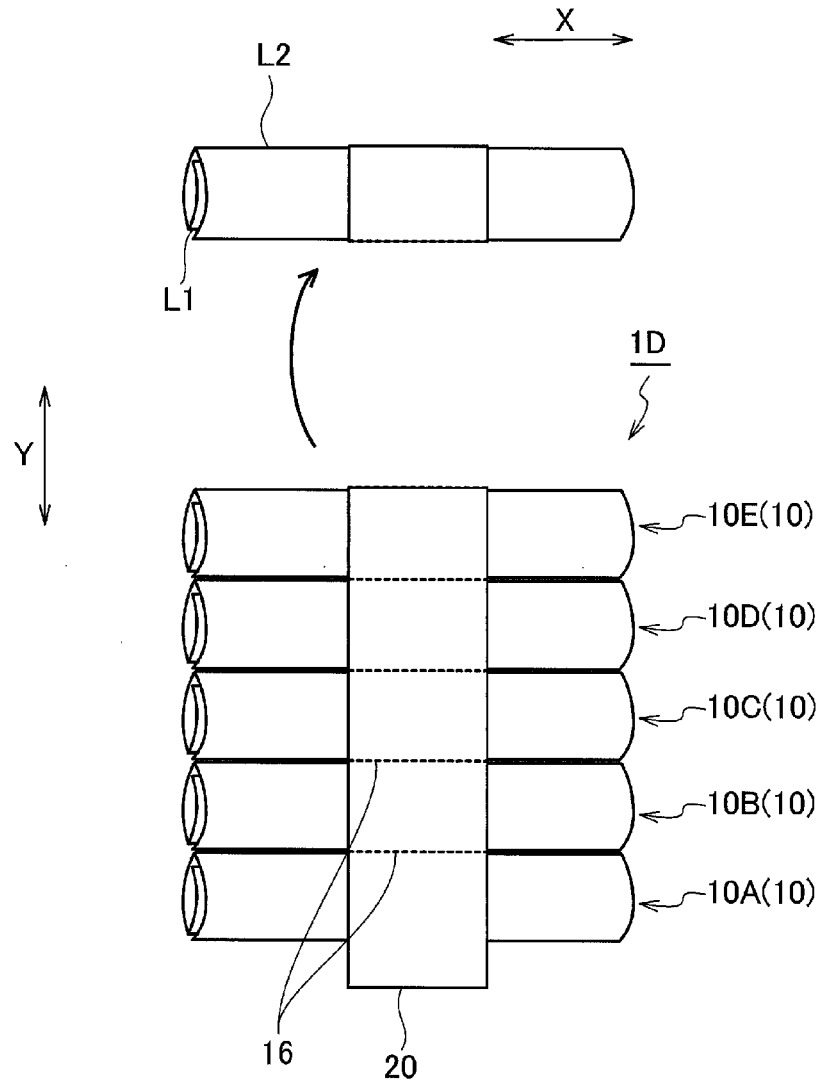
[図8]



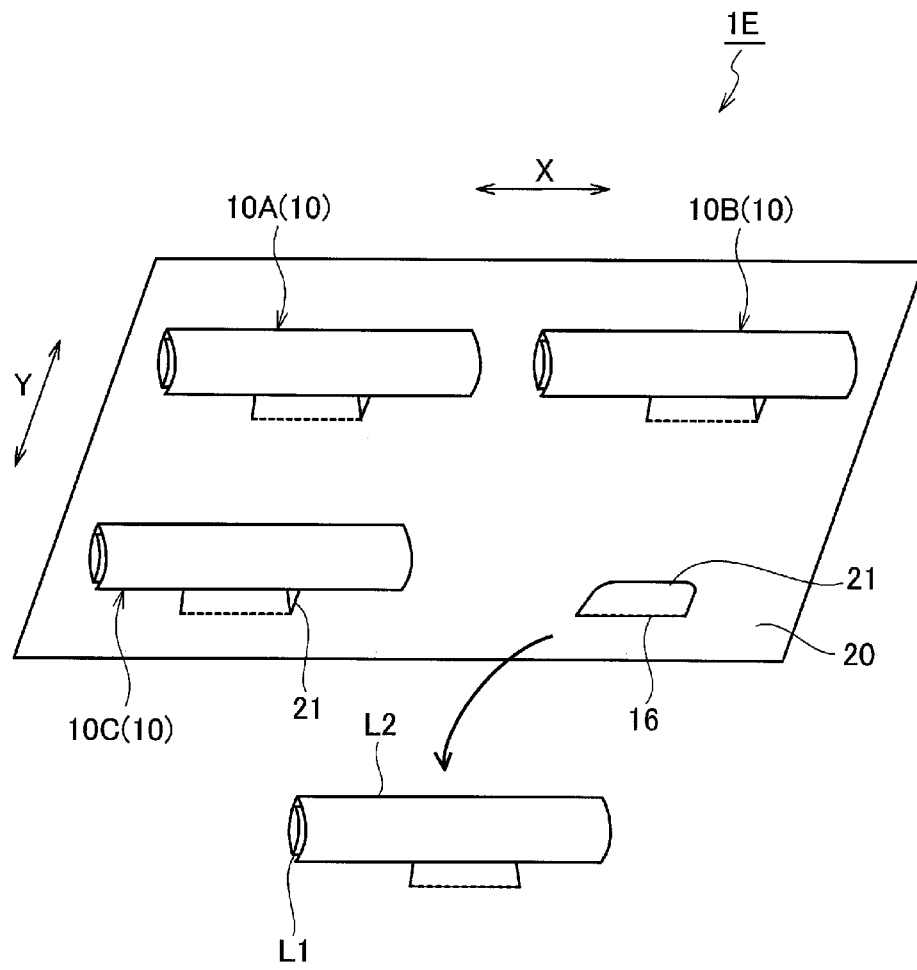
[図9]



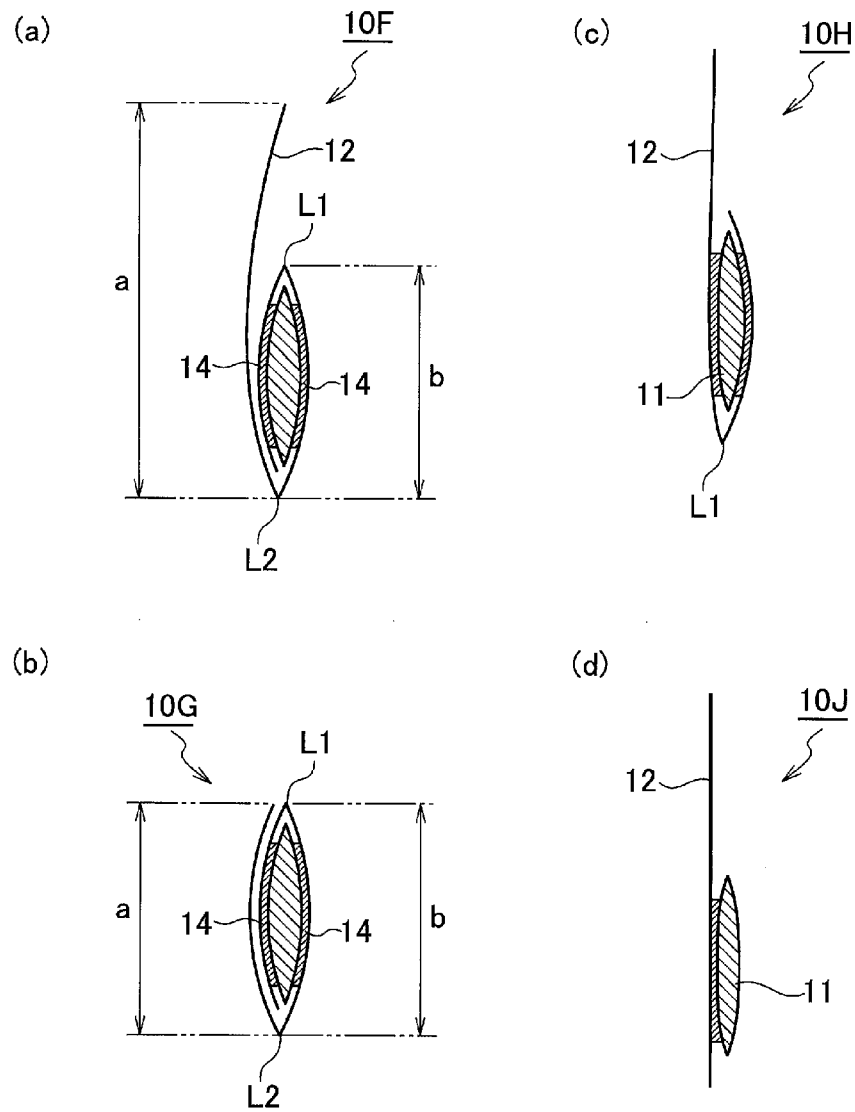
[図10]



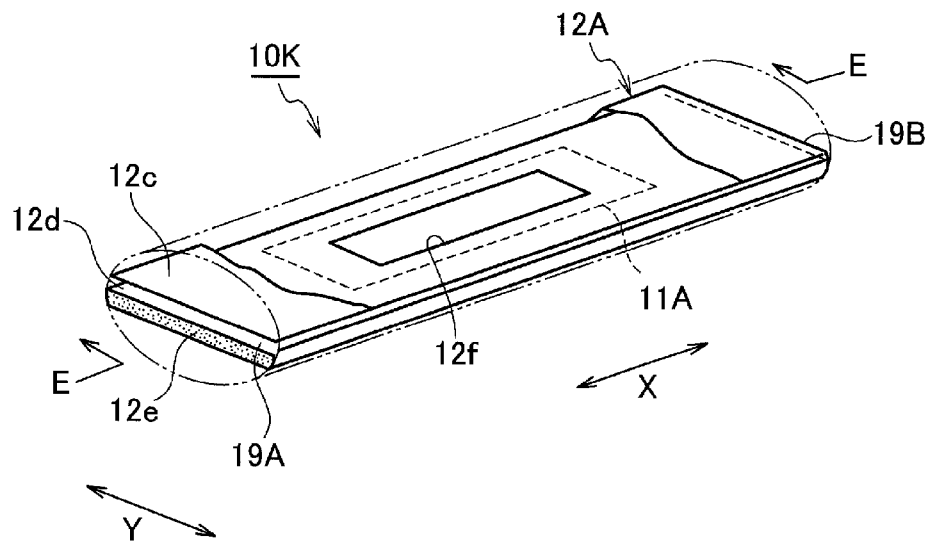
[図11]



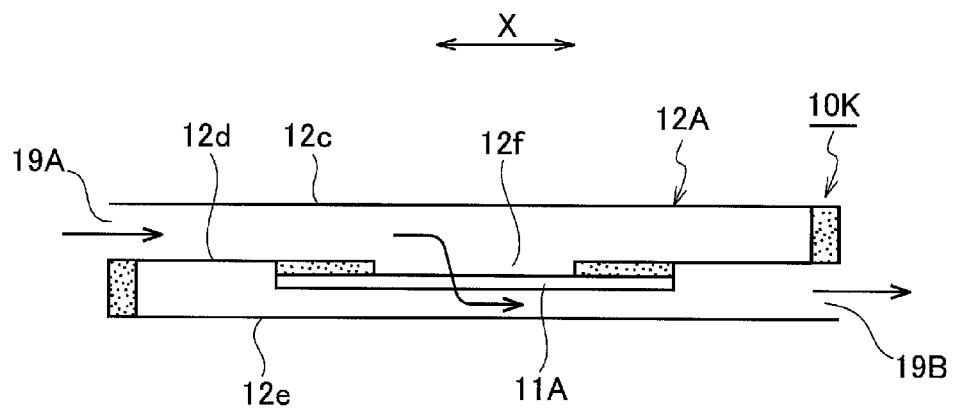
[図12]



[図13]



[図14]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2013/073343

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A24F47/00(2006.01)i, A61M15/06(2006.01)i, B65D73/00(2006.01)i, B65D85/10(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A24F47/00, A61M15/06, B65D73/00, B65D85/10

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2013
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2013	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2013

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	WO 2010/095660 A1 (Japan Tobacco Inc.), 26 August 2010 (26.08.2010), entire text; all drawings & US 2011/0290267 A1 & EP 2399638 A1 & CA 2752577 A & CN 102405074 A & TW 201032740 A & KR 10-2011-0117710 A	1-6
A	JP 2009-149317 A (Ishida Co., Ltd.), 09 July 2009 (09.07.2009), fig. 1 & US 2010/0270249 A1 & US 2013/0098799 A1 & EP 2223865 A1 & WO 2009/078226 A1	1-6
A	JP 06-009178 Y1 (Fusajiro ISHITSUBO), 04 August 1931 (04.08.1931), entire text; all drawings (Family: none)	1-6

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
18 November, 2013 (18.11.13)

Date of mailing of the international search report
26 November, 2013 (26.11.13)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2013/073343

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2000-109064 A (Dainippon Printing Co., Ltd.), 18 April 2000 (18.04.2000), entire text; all drawings (Family: none)	1-6
A	US 5526825 A (EFKA-Werke Fritz Kiehn GmbH), 18 June 1996 (18.06.1996), entire text; all drawings & EP 584805 A1 & DE 4228227 A & DE 59307665 D & NO 932991 A & PL 300182 A & ES 2111675 T & FI 933738 A & DK 584805 T & AT 160075 T & CA 2104554 A & CZ 9301710 A & HU 3899 A & SK 89993 A & HUA 0000H3899 & GR 3025408 T & NO 932991 D0	1-6
P,A	WO 2013/122054 A1 (Japan Tobacco Inc.), 22 August 2013 (22.08.2013), entire text; all drawings (Family: none)	1-6

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A24F47/00(2006.01)i, A61M15/06(2006.01)i, B65D73/00(2006.01)i, B65D85/10(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A24F47/00, A61M15/06, B65D73/00, B65D85/10

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 3 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 3 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 3 年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	WO 2010/095660 A1（日本たばこ産業株式会社）2010.08.26, 全文、 全図。 & US 2011/0290267 A1 & EP 2399638 A1 & CA 2752577 A & CN 102405074 A & TW 201032740 A & KR 10-2011-0117710 A	1 - 6
A	JP 2009-149317 A（株式会社イシダ）2009.07.09, 図1。 & US 2010/0270249 A1 & US 2013/0098799 A1 & EP 2223865 A1 & WO 2009/078226 A1	1 - 6

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

1 8 . 1 1 . 2 0 1 3

国際調査報告の発送日

2 6 . 1 1 . 2 0 1 3

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（I S A / J P）

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

杉山 豊博

3 L

9 0 3 8

電話番号 03-3581-1101 内線 3337

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	JP 06-009178 Y1 (石坪 房二郎) 1931.08.04, 全文、全図。 (ファミリーなし)	1 - 6
A	JP 2000-109064 A (大日本印刷株式会社) 2000.04.18, 全文、全図。 (ファミリーなし)	1 - 6
A	US 5526825 A (EFKA-Werke Fritz Kiehn GmbH) 1996.06.18, 全 文、全図。 & EP 584805 A1 & DE 4228227 A & DE 59307665 D & NO 932991 A & PL 300182 A & ES 2111675 T & FI 933738 A & DK 584805 T & AT 160075 T & CA 2104554 A & CZ 9301710 A & HU 3899 A & SK 89993 A & HUA 0000H3899 & GR 3025408 T & NO 932991 D0	1 - 6
P, A	WO 2013/122054 A1 (日本たばこ産業株式会社) 2013.08.22, 全文、 全図。 (ファミリーなし)	1 - 6